



修繕業を営んでいた。そののち同社は神戸の鈴木商店が経営することになり、資本金を六十万円に増加して施設を拡充し、新船の建造にも進出した。同社は小規模ではあったが、当社因島工場と隣接しているため、勢い無用の競争をさけることができなかった。そこで当社はその株式を買収する方針をたて、大正六年その過半数を占めたのを機会に同社の経営に乗り出したがついにこれを当社に吸収合併し、八年七月一日から当社備後工場として経営することになった。初代工場長は因島工場長大藪千太郎氏が兼任した。同工場は十一年一月三庄工場と改称し、因島工場の所管となった。

**従業員の増加** 事業の拡張にともなうて、当社の従業員は急激に増加した。すなわち大正三年株式会社組織を変更した当時は四千程度であったが、七年には一万七千人となった。実に四倍以上の増加で、単にこの数字によっても、そのころの社業繁忙の状況をうかがうことができる。

**大正六年度の新造船** この年度の新造船受注は、アメリカの鋼材輸出禁止から見送りの状態であった。また受注中の新造船は鋼材の入手に悩まされたが次

大正六年度当社建造主要船舶表（印イレーワード式構造船）

船種	船名	総噸数	注文主	建造工場
*貨物船	第二明海丸	三、一九二	明治海運株式会社	因島
*同	浙江丸	三、一七九	大阪商船株式会社	因島
*同	多喜丸	一、二二七	大正汽船株式会社	同
*同	海福丸	三、一八一	勝田銀治郎	因島
*同	正福丸	一、二二九	日下部久太郎	同
*同	名瀬丸	一、二〇八	大阪商船株式会社	同
*同	あふす丸	七、七八九	同	同
*同	福登丸	四、三六五	日本汽船株式会社	因島
*同	能登丸	一、二一三	北日本汽船株式会社	同
*同	明地丸	三、一九一	明治海運株式会社	因島
*同	蓬萊丸	六、〇七一	三井物産株式会社	同
*同	江蘇丸	三、一七九	大阪商船株式会社	因島
*同	大雄丸	四、三六六	互光商	同
*同	真雄丸	一、二〇七	内田汽船株式会社	因島
*同	明玄丸	四、三七八	北日本汽船株式会社	同
*同	同		日本汽船株式会社	同

大正七年度の新造船 大正七年度上期は日米船鉄交換の交渉期で、鋼材輸入の

施設の拡充と業績の躍進